

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

平成30年5月22日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 人文社会科学部・教授	
氏名 中田 潤	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	2017年4月2日 ～ 2018年3月31日

<p>①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)</p>	<p>サバティカル利用の全期間にわたってドイツ・ハンブルクに拠点を置き、下記の1～7の研究テーマに関して研究を実施した。またインタビューを含む資料収集の必要から、その間緑の党中央文書館(ベルリン)、ニーダーザクセン州中央文書館(ハノーヴァー)、バーデン・ヴュルテムベルク州中央文書館(シュトゥットガルト)、ルプミン、ゴアレーベンにおいて調査を行った。</p>
<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>具体的には以下の7つの分野について研究を遂行し、成果を発表ないしは発表予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハンブルク市の交通政策についての研究: 「シュタットラード・ハンブルク (StadtRAD Hamburg) ドイツにおけるモバイル・シェアリング」『茨城大学人文社会科学部紀要. 社会科学論集』1号(2017年9月)57-72頁として成果を発表。 2. ドイツにおける市民運動と緑の党の歴史についての研究: 「ドイツ緑の党の党内再編 左派フォーラムと出発派の動きを中心に」『茨城大学人文社会科学部紀要. 社会科学論集』2号(2018年2月)23-44頁, 「ドイツ緑の党の党内再編をめぐる動き 原理派の影響力喪失とベルリンの壁崩壊の影響を中心に」『茨城大学人文社会科学部紀要. 社会科学論集』3号(2018年9月)(現在投稿中)および「ドイツ緑の党の党内再編 左派フォーラムと出発派の動きを中心に」第68回日本西洋史学会大会報告(2018年5月20日 於広島大学)として成果を発表した。さらに1970年代末に時期を限定とした論文としての成果発表を目指して、ドイツ連邦共和国各地において資料収集およびインタビューを実施した。これに関しては2018年度中の論文の執筆終了を目指している。 3. ドイツにおけるまちづくりと協同性についての研究: 「ドイツにおける協同性について その歴史と現在 ヴォバーン地区を題材に」『茨城大学人文社会科学部市民共創教育研究センター研究報告書』(2018年3月)78-96頁として成果発表を行った。 4. ドイツにおける脱原発と地域社会に関する研究: 2017年9月に原子力発電所の廃炉後の跡地利用と地元社会の変容というテーマで乾康代(本学教育学部)および斎藤充弘(福島高専)と共同でルプミン(Lubmin)において廃炉関連企業, 中間貯蔵施設内の視察ならびに村内事業者, 工業団地内企業, 漁業従事者, 行政関係者, 連邦議会議員への聞き取りを行うとともに, 村民約

別紙様式第2号（裏面）

	<p>1500世帯にアンケートを実施した。成果発表を2018/19年度に目指す。さらに2018年3月にドイツ最大の放射性廃棄物中間貯蔵施設があるゴアレーベン (Gorleben)での調査を小野一（工学院大学）および東原正明（福岡大学）と共同で行った。具体的には、中間貯蔵施設運営会社および当地で貯蔵施設建設建設に反対してきた市民運動関係者にインタビューを行った。研究成果は、2で言及した論文の一部として発表する予定である。</p> <p>5. ナチズム期の強制収容所の歴史について研究：ハンブルクにあるノイエングメ強制収容所記念館と共同で強制収容所記念館を紹介する日本語パンフレットの作成（2018年2月発行）を行った。</p> <p>6. ドイツにおける脱原発の進展に関する研究の一環として、ドキュメンタリー映画への撮影協力：Pier 53 Filmproduktion, Rau & Wendler GbR製作のドキュメンタリー映画「Atomkraftwerk Reloaded」の撮影協力および情報交換を行った。同ドキュメンタリー映画は2018年12月にドイツの公共放送であるARDで放映の予定である。</p> <p>7. 日独比較史研究の一環として、ハンブルク工芸美術館との共同研究：2017年11月3日から2018年3月4日までハンブルク工芸美術館で開催されていた企画展「Tiere」用のカタログ作成を添田仁（茨城大学）と共同で実施した。</p>
<p>③その他の特記事項 （サバティカル制度に対する意見、今後の希望なども記入して下さい。）</p>	<p>研究に専念する機会を与えて頂いた。大学・学部執行部ならびに同僚に大変感謝している。</p>

※表面については、本学のウェブサイトで公表しますので、支障のない範囲で記入して下さい。